

## <ワークショップ>

保護者に寄り添い届ける「アウトリーチ型支援」で子供たちの健やかな育ちを支えよう！

ワークショップでは、各テーブルで「アウトリーチ型支援」を立ち上げるためのチームになっていただき、以下を参考に話し合い、ワークシートにまとめて発表していただきます。

それぞれのチームの中には、様々な立場や経験を持つメンバーがそろっています。

「できない」「やれない」ではなく、「こうやればできる」を前向きに考え、地元を持ち帰って「やってみようと思うアウトリーチ型支援」を作り上げてください。

時間		ワークショップの流れ
14:45～14:50	(5分)	事務局より趣旨・進め方の説明
14:50～15:40	(20分)	<p>チーム内での話し合いの流れ</p> <p>① 司会、書記、発表者など役割の決定</p> <p>【自己紹介・話し合いの材料集め】</p> <p>②-1 自己紹介も兼ねて、各メンバーが関わっている活動について、課題や目的、活動内容、手法を共有する。(1人 1分程度) ※ここで時間をかけると話し合う時間がなくなるので簡潔にお願いします。</p> <p>②-2 特に、実践の中でうまくいっていない部分(届けたい〇〇な対象に参加してもらえていないなど)を共有する。(1人 1分程度) また、メンバーが直接、関わっている活動以外でも解決すべき地域の課題があれば材料として提供する。 ※支援する側としてだけでなく支援される側としての問題意識も可です。</p>
	(30分)	<p>【アウトリーチ型支援が有効な課題の設定】</p> <p>③ ①②で出た課題の中で、アウトリーチ型支援が有効だと考えられる、チームとして検討する課題を設定する。 ※必ずしも一つだけである必要はありません。</p> <p>【アウトリーチ型支援の具体的な支援内容の検討】</p> <p>④ 事例報告やパネルディスカッション、メンバーの活動などを参考に、③で設定した課題解決に向けて、必要とされている家庭・保護者に届けるアウトリーチ型支援として、支援の対象、手法、内容等を検討する。 ※家庭への訪問だけに限らず多様な支援の届け方を検討してください。</p> <p>【効果的な支援のための工夫・留意事項の検討】</p> <p>⑤ ④を地域で効果的に実践するため、関係機関との連携や情報の取り扱い、支援者の構成など、実現化するための工夫などを検討する。</p> <p>【全体まとめ】</p> <p>⑥ 発表・提出に向けて検討内容を取りまとめ、ワークシートを整理する。 ※まとめたワークシートは発表したチーム以外も提出していただきます。</p>
15:40～16:05	(25分)	発表(5チーム×5分)
16:05～16:15	(10分)	まとめ・講評

## 【話し合いの前提条件】（全チームの共通認識）

## 家庭教育支援とは

家庭教育を行う保護者を支援するために行う取組。保護者に対して、家庭教育や子育てに関する学習機会や情報の提供、親子で参加できる行事・プログラムの実施、相談対応、保護者の関心を高めるための啓発活動、支援に関わる人材の養成、効果的な支援を行うための学校や福祉関係機関等との連携などが考えられます。

## アウトリーチ型支援とは

家庭への訪問に限らず、学校（就学前健診や参観日などの活用を含む）や企業、健診の機会など保護者が多く集まる場に支援者が出向き、情報提供や相談対応などの支援を行うような自ら学びや相談の場に出向くことが困難な家庭・保護者に対し、寄り添い届ける家庭教育支援の取組全般を指します。

メモ欄

## 1. なぜ今アウトリーチ？

地域が抱える解決したい課題・ねらいを具体化・明確化する。

・事例発表やパネルディスカッション、グループ内のメンバーの活動を参考に、支援が必要な家庭に届いていない状況やアウトリーチ型の支援が効果的だと考えられる課題を整理し、グループとしての目的を決定する。

## 2. 何をどうやるの？

1で設定した課題解決に向けて、支援の対象や有効な支援の手法・内容を具体化・明確化する。できる限り具体的な取組として記載する。

- ・課題に即した支援対象の絞り込み  
(例：不登校の未然防止のため、3日連続の欠席の児童生徒の家庭を訪問)
- ・支援の届け方(手法・場所など)  
(例：就学前検診の機会を活用し、新小学1年生の子供を持つ家庭に支援を実施)
- ・支援の内容  
(例：家庭教育支援の取組の周知(情報提供)や個別相談会の実施)
- ・支援に必要な体制 など

## 3. どんなことに気をつけるの？

上記の支援内容等をより効果的な支援にするため、足りない要素を補う工夫などを具体化する。

- ・支援体制の工夫(支援者の構成メンバー)  
(例：学校との連携を円滑に進めるため、S S Wをチームのメンバーに入れる)
- ・課題や支援対象に応じた関係機関等との連携  
(例：要保護児童対策地域協議会において、児童相談所や市の担当ケースワーカーと定期的な情報共有)
- ・支援を届けるための工夫(場所や時間、きっかけづくりなど)  
(例：地域の情報紙を配布するという名目で保護者と対面のきっかけをつくる)
- ・情報共有や個人情報の取り扱いのための工夫 など